

景況レポート

(5月分・情報連絡員80名)

製造業で景況感が後退

【概況(全体)】

5月分の県内景況は、前年同月と比較して景況が「好転」したとする向きが10.0%(前回調査12.5%)、「悪化」が36.3%(同37.5%)で、業界全体のDI値は-26.3となり、前月調査と比較し1.3ポイント下回り、景況感は後退した。

全国及び東北・北海道ブロックとの比較では、本県の景況DI値は、製造業が低調となったことから全体DI値も全国及び東北・北海道ブロックを下回った。

【業界別の状況】

業界別では、一部の小売業やサービス業で回復傾向が見られたことで、非製造業にDI値の改善が見られたものの、食料品製造業では売上高、収益状況が悪化したことで製造業全体のDI値に反映する数値となった。

なお、全体の景況感は、原材料の値上げとともに内外の過当競争や人手不足にも一層の拍車がかかっており、経営コスト上昇と供給力の減退が非常に逼迫していることから、中小企業の先行きは依然として注視していく必要がある。

<全国及び東北・北海道ブロックとの景況DI値の比較>

	秋田県	全 国	東北・北海道
全 体	-26.3	-18.3	-25.2
製 造 業	-31.3	-15.7	-24.2
非製造業	-22.9	-20.2	-25.6

<景況天気図>

項目	業界の景況	売上高	販売価格	取引条件	資金繰り	雇用人員
製 造 業						
非製造業						

【凡例】

快晴 30以上
 晴れ 10以上 30未満
 曇り △10以上 △30未満
 雨 △10未満 △10未満
 雷雨 △30以下

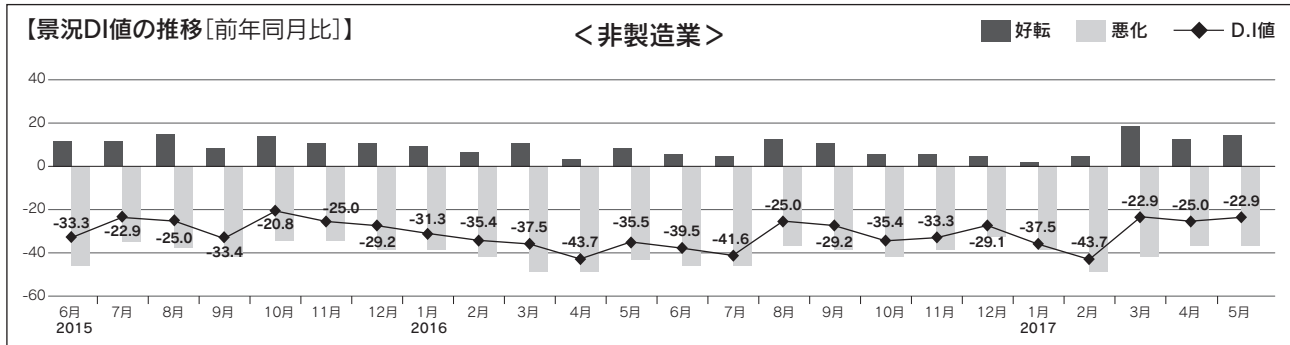
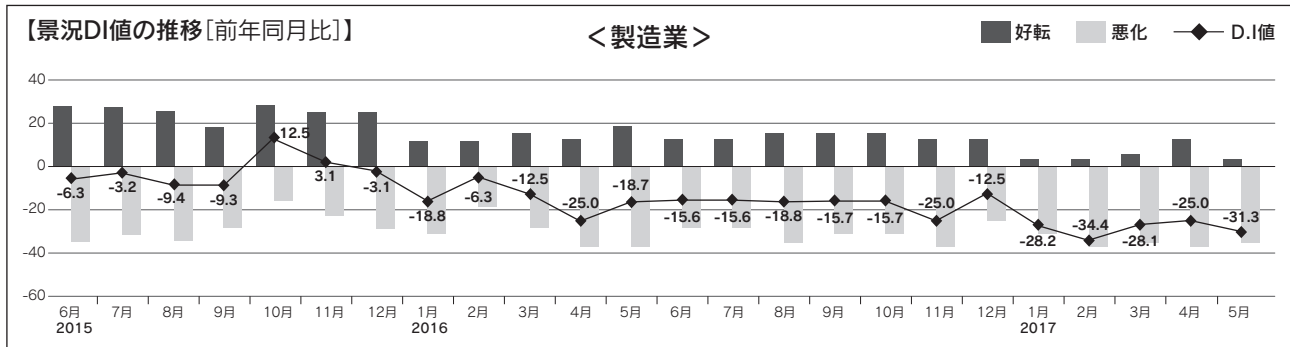
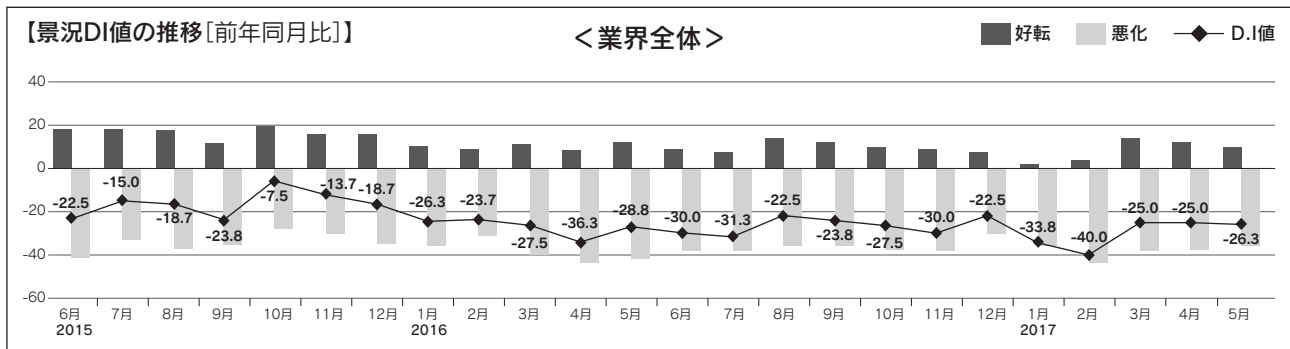
【天気図の見方】
前年同月比のDI値をもとに作成しています。

※DI値とは、Diffusion Index(ディフュージョン・インデックス)の略で、増加(好転)したとする企業割合から、減少(悪化)したとする企業割合を差し引いた値です。

【業界の声】 ~製造業~

(回答数：32名 回答率：100%)

食料品 (豆腐)	対前年比ほぼ横ばいでの推移。取引先スーパーの激しい競争の影響で売上は伸びない。
食料品 (製麺)	消費者の購買力が著しく低下しており、大手メーカーが低価格で販売している。
繊維工業 (ニット)	5月後半から例年より受注が減少した。追加発注は若干あるが、小ロットが多く、各アパレルが在庫調整に入っていると感じさせられる。
繊維工業 (繊維)	紳士服は前年同月比では横ばいで推移。婦人服については、受注はあるもののメーカーへの工賃の交渉も難しく、生産力の低下により売上向上に結びつかない状況にある。地方の人口減少によるデパート閉鎖などが続き衣料品が売れていない。
木材・木製品 (一般製材)	4月は製品の注文量は県外、県内とも前年並みで推移している。製品価格は6月1日に改定されるが現状維持。原木は小径木の出材が少なく、価格は高めで推移している。原木の低下(トビ腐れ、曲がり、大節等)が著しく、歩留まりを悪化させ収益低下の大きな原因となっている。
印 刷	回復を実感するには至っていない。低価格の発注・受注は依然として改善されていないのに加え、用紙の値上げも発表され、今後の不安材料がさらに増えた。今後も廃業による組合員の減少が予想される。
窯業・土石製品 (生コンクリート)	5月の出荷数量は、前年比100.8%、4月～5月累計で86.9%となった。今年度の出荷数量を610,000m ³ (前年比101.7%)と想定したが、達成は厳しい状況にある。特に県南地区の落ち込みが激しい。
鉄鋼・金属 (機械金属)	僅かながら、公共事業の工事が出てきているようである。受注は6月以降となるが少しずつ改善されていくことを期待している。企業によって多少のバラツキが見られ、取引条件は依然として厳しい。
鉄鋼・金属 (鉄 鋼)	そろそろ動きが出る頃と思っていたが、まだ動きが鈍い状態である。手持工事は各社バラツキが見られる。見積依頼が増えてきており、6月中旬から7月にかけて本格的に稼働すると考える。
その他の製造業 (曲げわっぱ)	依然として、弁当類の売上が好調で供給が追いつかない状況にあり、材料の確保が難しくなっている。



【業界の声】 ~非製造業~ (回答数：48名 回答率：100%)

卸売業 (青果)	5月の売上は、前年同月比98.9%で推移した。ジャガイモや玉ネギなどは相変わらず高値である。葉物野菜は気温も高くなり各地で収穫され始め、平年並みの値となっている。
卸売業 (卸団地)	需要の停滞、販売価格の低下、大企業の進出による競争の激化から経営環境は厳しく苦戦している企業が多い。特に建設資材、文具関係、日用雑貨等を取り扱う業者からの声が多く聞かれる。
小売業 (自動車)	5月の新車販売台数は、登録自動車が1,803台(前年同月比102.2%)、軽自動車が1,844台(同135.3%)で、合計3,647台(同116.6%)であった。軽自動車は2ヶ月連続して2桁の伸びとなり、全体では3ヶ月連続のプラスで軽自動車が登録車を上回った。
商店街	GWに樹海ドームにおいて、北海道北東北グルメフェスタ&肉の博覧会が開催され、3日間で1,358百人の来場があった。出店者の売上げも順調で利益確保につながったようである。中心市街地からは離れた場所であるため、商店街への波及効果は残念ながら小さかったが、市全体での経済効果は大きかった。(大館市) 商店街全体としては回復を思わせる現象は起きていない。個々の奮闘が時折見られる。(鹿角市)
サービス業 (自動車整備)	5月の自動車検査台数実績では登録車が4.3%、軽自動車が10.4%それぞれ増加し、全体では前年同月比で7.0%の増加となった。特に軽自動車は2桁増と好転している。
サービス業 (タクシー)	乗務員1人当たりの運送収入が増収になっているものの、乗務員が絶対的に不足している。よって、タクシーが稼働すれば、減収はある程度抑えることができると考えられる。
建設業 (電気工事)	先月に引き続き、暇な5月となった。公共工事・一般住宅共に動きが悪い。明るい兆しは見えてこない。電工を募集しても応募がないのが現状。予算も決まったオリンピック会場の建築に向けて、益々本県の電工が不足すると思われる。(中央地区)
運輸業 (トラック)	軽油価格は2円20銭値下がりしている。荷動きは、5月になっても悪い状態。近県も同様で関東から東北向けの荷物があっても出発の荷物が無いために引取り出来ない状況にある。(中央地区)
その他の非製造業 (砂利採取)	昨年度からの残工事等でクラッシャーラン関係が若干増えたものの生コン用骨材は横ばいであった。(県南地区)